

YOKOHAMA HISTORY MUSEUM

横浜市歴史博物館



News No. 58
2025.4

大塚・歳勝土遺跡公園だより
歴博ファーム通信⑨
令和6年度企画展報告
ミュージアムショップより

館長コラム vol.7

30

YOKOHAMA HISTORY MUSEUM

開館30周年特集

座談会

開館30周年記念
特別講演会を終えて

開館30周年記念特別展

横浜の文化財 Yokohama Heritage

—まもり伝える地域の記憶

開館30周年記念ポスター展示

横浜市歴史博物館
展覧会ポスター展



座談会 開館30周年記念特別講演会を終えて

横浜市歴史博物館の これまでとこれから

令和7年(2025)3月12日
於：横浜開港資料館会議室

- ◆井上 攻
(前横浜市歴史博物館副館長)
- ◆平野卓治
(日本大学文理学部教授、
元横浜市歴史博物館副館長)
- ◆刈田 均
(横浜市歴史博物館副館長)

※所属は令和7年3月時点



写真左から刈田・井上・平野

令和7年2月1日に、当館開館30周年を記念した講演会「横浜三万年の歴史の軌跡―横浜市歴史博物館のこれから―」を開催しました。博物館の開館や展示準備に関わってこられた先生方から、各分野・時代ごとの横浜について語っていただいたあとに、当館のこれからを考えるディスカッションを行いました。この講演会の登壇者で、当館の開館準備室での勤務を経験した3人をお呼びし、ディスカッションで話題にあがったことを振り返りつつ、これからの当館についてご意見をうかがいました。

―博物館の開館準備といっても、何をするのか想像できない読者が多いと思います。準備室ではどのような業務をしていたのでしょうか？

刈田 井上さん、平野さんが開館準備室に着任されたのが平成2年(1990)4月でしたね。

井上 最初とはにかく、トータルメディアと大高建築設計事務所が作成していた基本設計を修正しなければなりませんでした。

平野 大変だったのは、当時の準備室メンバーには博物館を経験した学芸員がいなかったことかな。

井上 そのときの準備室には広辞苑くらいしかなかったし。

平野 次年度には実施設計をつくらなければなりませんでした。当時すでに決まっていた常設展示室の円形の空間をどのように使うか、ということもそこから決めていて、中央にスタディサロンを配置することも我々で考えました。

刈田 まさにこの時に考えられた「自由動線」というのが、いまでも当館の展示室を古臭く感じさせない仕掛けになっていますよね。

井上 「自由動線」というのは平野さんが考えたことです。

まだ若くて、苦労とは感じていなかったけれども、いろいろ一生懸命考えたよね。

平野 刈田さんが入ったのは翌年で、遠藤廣昭(元当館学芸課長)さんと一緒だね。

刈田 平成3年4月ですね。

―講演会ディスカッションでは、平野さんから準備室時代の資料収集についてのお話もありました。どのように資料を集めたのでしょうか？

井上 資料収集に関する制度設計はすべて平野さんがつくりましたよね。

平野 はじめに資料収集方針を決めることからでした。資料購入の予算はあったが、どう使うかということを考えなければいけなかったんです。買うにしても、買う方法を整えなければならなかったから、資料収集委員会などの仕組みもつくりました。

刈田 準備室時代、平成2年に資料収集委員会を開いていますよね。

井上 開館前、考古資料と民俗資料は港北ニュータウン開発のなかで出てきたものがありました。歴史資料がまったくありませんでした。佐久間象山関係資料、「本牧本郷村絵図」などは開館準備で購入したものです。

いまは寄贈資料も増えましたが、開館当時は博物館としての信用がまだなかった。それを得るには、やはり館がオープンしてから10年くらいはかかりました。

平野 資料収集の核になったのは東海道関係資料。ひとつの自治体に宿場が3つ(神奈川・保土ヶ谷・戸塚)含まれるようなところは、当時横浜市しかなかったから意識的に収集していて、結果ひとつのコレクションになっていきました。



常設展示室スタディサロン



本牧本郷村絵図

——開館後は古代・近現代まで各時代の調査研究成果が展示されてきましたが、なかでもとくに印象的な展示準備や調査研究の思い出はありますか？

平野 考古・古代史の展示は精力的にやっていたと思います。資料調査と称して行きたいところに行っていたね（笑）

思い入れのある調査研究と言うと、西ノ谷遺跡出土の甲冑小札についてですね。外部の研究者を呼んで研究会も行いました。その集大成としての特別展「兵の時代―古代末期の東国社会」（平成10年10月10日～11月23日）を開催しました。

展示をもうひとつ挙げるなら、川崎市市民ミュージアム・府中市郷土の森博物館との連携特別展「文字との出会い―南武蔵・相模の地域社会と文字」（平成15年5月24日～7月6日）。古代の武蔵をイメージできるような展示を目指してつくりました。複数館連携展示の試みは当時としては早いほうでした。3館を行き来する臨時バスを出すなどして、周遊の工夫をしました。

井上 中世・近世史では、横浜には開港以前の歴史は何もないと言われた中で、中世の遠藤・阿諏訪美学芸員、近世の斉藤・小林紀子学芸員が、中近世にも横浜の歴史としてかたるものがあることを企画展で示してきました（特別展「鎌倉御家人平子氏の西遷・北遷」平成15年10月18日～11月24日、特別展「横浜の礎・吉田新田いまむかし」平成18年10月7日～11月26日、企画展「鶴見合戦―『太平記』にみる横浜―」、企画展「戊辰の横浜―名もなき民の慶応四年」平成30年7月21日～9月9日など）。調査研究については、市民のとの学習の成果を活かす「縄文土器づくりの会」や「古文書を読む会」との協働の形が斬新だったと思います。

刈田さんも自分の展示で何か挙げなよ。

刈田 私はやっぱり千歯こきの展示（企画展「仕事がかどるギザギザ農具 千歯こき―こうして横浜へやってきた」平成25年1月26日～3月24日）ですね。

——ディスカッションでは、「市民と博物館との協働」というのもひとつのキーワードになり、「古文書を読む会」などの当館関連団体の活動も例に挙げられていました。これらの立ち上げに関わった立場からみて、現在の当館の市民協働の取組についてどう思われますか？

平野 開館当初は歴史講座を開いていましたが、参加者が講座終了後も活動できるよ

うに、「古文書を読む会」・「古代史料を読む会」などのOB会を組織するという仕掛けをつくったのが井上さんです。

井上 参加者のみなさんとは今でもお付き合いがあるので、思い入れがあります。都筑区はもともと、市民参加・市民協働に興味のあるひが多かったんです。一方で、歴史好き以外の市民と協働できたのかというと、そこに関しては当初から批判はありました。

現在の取組では、「よこはま縁結び講中」（当館も参加している、地域文化遺産と市民をつなぐ取組）が第15回地域再生大賞優秀賞を受賞し、博物館などの施設が集客のための箱としてだけでなく、地域活動のハブとなる取組をしていることが評価されましたね。当時の自分たちができなかったことにいまの世代のひとたちが取り組んでいて、それは外からも十分に評価されています。

——最後に、井上さんと平野さんには当館職員OBとしてのお立場から、刈田さんには現副館長として、これからの当館に期待すること、または課題となることを教えてください。

刈田 開館30周年を迎えるにあたって「つなぐ、つなげる、つながる」をキーワードに掲げました。これまで生涯学習施設として行ってきた、過去（歴史）とそれを語る資料を現在の市民とをつなげるハブ、また歴史と資料を未来（次世代）につなぐハブとして活動すること、先ほど井上さんも話していた地域で活動する市民や団体とをつなげる地域と文化のハブとして活動することを表現したものです。これから市民に不可欠なハブとなるよう、博物館活動を進めていきたいと思っています。

平野 考古の展示をふくめて、横浜の歴史についてはできることがたくさんあるから、踏み込んだ展示をたくさんしてほしいです。

井上 横浜は広いから、発信力をつけたいですね。歴史好きじゃないひととのハブになることも考えていってほしいです。

*座談会の直後、令和7年4月1日に平野卓治氏が急逝されました。平野氏は平成2年から横浜市教育委員会の歴史博物館建設等担当の嘱託職員として勤務され、平成4年10月に（財）横浜市ふるさと歴史財団が発足してから当館学芸員となり、平成27年に横浜ユーラシア文化館副館長として異動されるまで、当館の礎を築かれてきました。生前のご厚誼に深く感謝いたします。



企画展「千歯こき」チラシ



企画展「戊辰の横浜」チラシ



企画展「鶴見合戦」チラシ



特別展「兵の時代」チラシ

特別展

横浜の文化財

Yokohama Heritage

に寄せて

—まもり伝える地域の記憶 古文書資料の場合—

開館三十周年を迎えた横浜市歴史博物館では、「横浜に生きた人々の生活の歴史」を基本理念とし、それに則った資料の収集保存、調査研究、常設展とさまざまな企画展、講座やワークショップをはじめとする多彩な普及事業などを展開してきました。今回の特別展は、こうしたこれまでの活動をもとに、横浜に伝えられてきたさまざまな文化財（長い歴史の中で今日まで守り伝えられてきた大切なモノやコト）を紹介するとともに、これらのモノをまもり、残し、さらに未来へ伝えていくことの意味を考える内容となっています。

特別展では、Part1修復、Part2伝承の二つのテーマを掲げ、文化財と、それをまもり伝える人々や技術、環境などについて紹介しますが、実は博物館では、「モノをまもり、伝える」さらなる基本的な活動を日々行っています。それは横浜の歴史文化にかかわるモノ（資料）の収集と整理、調査研究です。当館には考古、中世史、近世史、民俗、美術の各分野の学芸員が所属していますが、それぞれの分野で日々収集、整理、調査研究が行われており、さまざまなテーマの企画展や講座、他機関との連携事業などの基となっています。全分野の事例について、ここではとも紹介しきれませんが、筆者の専門である近世史（江戸時代）の分野について、少しご紹介してみようと思います。

近世史分野のうち、当館にお迎えするモノで圧倒的に多いのは、地域の旧家に残された古文書です。数十点規模から、多いと一万点を超えることもあります。家の整理や建て替え、転居、世代交代などの際にご所蔵者からご相談を受け、おまに寄贈や寄託の形で受納します。

古文書が未整理の状態の場合、そのままでは私たちも市民の皆さんも利用できません。どんな古文書が何点あるのか、その全貌を把握し、利用を可能にするために、一から整理を

行います。具体的には、古文書一点一点について、表題（なければ名づけも行う）・年代・差出人や作成者・宛先・形態などの情報を読み取り、それを鉛筆で記入した中性紙の封筒に一点ずつ収納していきます。さらに番号を付し、すべての情報をパソコンに入力して、目録のデータを作成します。点数が多いと、作業に数年かかることもある根気のある作業です。



古文書整理のようす。過去刊行の目録と内容を照合しています。

市内の古文書の中には、過去に神奈川県や横浜市などによる調査が行われ、すでに封筒に入れられて目録化されているものもあります。ただし、こうした古文書でも再整理が必要です。調査時から長年経っているため、当時は確認できなかった文書が増えていないか、逆に無くなったものはあるか、表題など諸情報の読み違いはないか、など確認すべきことが少なくないからです。

こうして整理が終了した古文書は、収蔵庫に収められ、活用機会を待つとともに未来に向けて保存されます。整理時に作成した目録は、年に一度順次刊行しており、博物館の図書室等で（近年のものは博物館ホームページで）ご覧いただけます。

ただし、古文書のほとんどはくずし字で書かれており、その解読が大きなハードルとなります。そのハードルを少しでも低くできるように、博物館では古文書を解読し、内容を読み解く調査研究と普及事業も行っています。たとえばくずし字に親しんでいただく機会として、初心者講座「はじめての古文書」を開催し、そのOB会「横浜古文書を読む会」とともに、館蔵古文書の解読を進めています。その成果は、博物館紀要や講座、企画展などで発表しています。筆者の場合、同会とともに数年かけて解読し、内容を分析した「金川日記」（個人蔵）や「武州金沢藩目付日記」（当館蔵）の翻刻全文を紀要に掲載し、さらに内容を企画展「黒船・開国・社会騒乱」（平成二十一年）、「横浜の大名」（令和三年）にそれぞれ反映しました。これらは市民の方々の協働研究の結果であり、同時に市民の皆様が古文書や横浜の歴史について興味を持っていただく機会になることを願っての情報公開、という意



古文書を読む会と解読した「武州金沢藩目付日記」



開館30周年記念特別展

「横浜の文化財 Yokohama Heritage —まもり伝える地域の記憶—

Part1「修復」 令和7年4月26日(土) ▶ 6月2日(月)

Part2「伝承」 令和7年6月14日(土) ▶ 7月27日(日)

【休館日】月曜日（ただし5月5日、6月2日、7月21日は開館）、5月7日（水）、6月3日（火）、7月22日（火）



「武州金沢藩目付日記」の翻刻が掲載された紀要

識で取り組んできたものです。

横浜の歴史を語るモノをまもり、残し、未来に伝えるためには、そのモノの持つ情報を引き出し、魅力を多くの方に知ってもらう必要があります。これは今回ご紹介した博物館での基本的な活動にも、特別展で注目する「修復」「伝承」にも共通することです。

さらにこうした活動の背景には、モノを取り巻く地域の方々の努力やご協力があることを忘れてはいけません。今回の特別展も、まさに地域のパワーのおかげで成り立っています。展示を通じて、伝えられてきたモノの背後にある物語や風景、かわってきた人びとを想像し、ふるさと横浜の歴史とその魅力を感じていただければ幸いです。（文 小林紀子）

■横浜市歴史博物館 開催展覧会一覧

年 度	タイトル
平成6年度	灯火具のあゆみ 弥生の“いくさ”と環濠集落 一大塚・歳勝土遺跡の時代― ●横浜市蔵ネイラーコレクション特別公開PART2 カメラで時代をさかのぼる
平成7年度	中世の世界に誘う仏像 院派仏師の系譜と造像 幻の縄文土器の時代 一部筑区桜並遺跡の発掘調査の成果― 東海道と神奈川宿
平成8年度	港北ニュータウン地域の暮らし ●横浜市所蔵 カメラ・写真コレクション【ネイラーコレクション】 特別公開 コレクションに見る写真の歴史Ⅰ】光をつかまえる 写真の誕生～乾板写真の出現 収蔵資料展Ⅰ 旅・東海道・金沢八景 縄文文化誕生 都筑区花見山遺跡が解き明かす最古の土器文化の謎 きみにも見える一万年 ●オリエンタリスト江上波夫コレクション展 ユーラシア諸文明の交感 江戸時代の横浜の姿 絵図・地誌などにみる 海からの江戸時代 一神奈川湊と海の道― ●横浜市所蔵カメラ・写真コレクション特別公開 コレクションに見るカメラ・写真の歴史Ⅱ】広がる写真 乾板・ロールフィルムの登場とアマチュア層の誕生 中世よこはまの学僧 印刷 戦国に生きた真言密教僧の足跡 収蔵資料展Ⅱ 第Ⅰ部 土の鈴 ―始まりとかたち―/第Ⅱ部 江戸時代の生活諸相
平成9年度	●横浜発掘物語 目で見える発掘の歴史 絵図・古文書で探る村と名主 武蔵国久良岐郡上大岡村 新収蔵資料展'98 浮世絵・絵巻・暮らしの道具など 兵(つわもの)の時代 古代末期の東国社会 たこ風あがれ 伝統風つくし展 幻の宮 伊勢斎宮 ―王朝の祈りと皇女たち― 開港期・横浜の風景 海とともに暮らしていた頃 秀吉襲来 ―近世開港の幕開け― ●開館5周年記念 館蔵品の紹介展示 ●中世の梵鐘 物部姓諸物師の系譜と鑄造 ●江戸時代のよこはま 都筑の村々 絵図・古文書で探る区域のすがた ●描かれた東海道 くらしと道具の百科事典 ―ちょっと昔を探してみよう― ●発見！巨大集落 大熊仲町遺跡と縄文中期の世界 ●新指定文化財展 ●古墳からのメッセージⅠ 横浜の古墳と副葬品 古墳からのメッセージⅡ 大古墳展 ヤマト王権と古墳の鏡 ●私たちが作った縄文土器展 ●大塚・歳勝土遺跡公園開園5周年記念 歴々大環濠集落 ―吉野ヶ里から大塚まで― ●東海道宿駅制度400年記念展示PART1 屏風、絵巻に描かれた東海道 ●東海道宿駅制度400年記念展示PART2 東海道と保土ヶ谷宿 ●東海道宿駅制度400年記念展示PART3 東海道双六の世界 ●平成13年度 横浜市新指定文化財展 ●中世の模札 一神と仏と人々信仰―
平成10年	東へ西へ 律令国家を支えた古代東国の人々 ●2002FIFAワールドカップ記念文化催事 ようこそ、歴史の横浜へ ●たのしい考古学 ●屋根裏の博物館 ―実業家渋沢敬三が育てた民の学問― ●平成14年度 横浜市指定・登録文化財展 一新指定文化財を中心に― 横溝屋敷文化財指定15周年記念 江戸時代の獅子ヶ谷村 ―絵図・古文書で探る村と名主― ●古代日本文字のある風景 金印から正倉院文書まで ●古代を考えるⅢ 文字との出会い 南武蔵・相模の地域社会と文字 ●ペリー来航150周年記念 ペリー来航と東京湾 PART1絵地図にみる世界・日本・東京湾 ●ペリー来航150周年記念 ペリー来航と東京湾 PART2 東京湾岸の地域と村々 ●鎌倉御家人 平子氏の西遷・北遷 ●平成15年度 横浜市指定・登録文化財展/横浜の遺跡展 ●製造元祖 横浜風琴洋琴ものがたり ●東海道と戸塚宿 ●開国150周年記念 武州金沢藩と黒船来航 ●江戸風俗絵巻 ―描かれたあそびとくらし― ヤマトとアツマ ―武具からみるヤマト王権と東国― ●平成16年度 横浜市指定・登録文化財展 一指定された薬師仏― ●横浜の遺跡展 一華麗な縄文土器の世界― ●米づくりの道具たち 犁と唐箕と横浜の農具 幕末動乱を生きた武士 一武州金沢藩士・萩原雄右衛門則嘉の生涯― ●浮世絵 絵図でめぐるかながわの名所 おなががすいた はらべこだっ！ 一縄文時代のごはん― 武器と刀剣 よこはまの浦島太郎 一中世説話から現代まで― 平成17年度 横浜市指定・登録文化財展 横浜の遺跡展 一弥生時代の集落と生活― 「諸岡五十戸」木簡と横浜 一大宝律令以前の支配システムを探る― 弥生の人びとの眠る場所 ちょっと昔を探してみよう 1960年代 くらし・教室・遊びの風景 吉田新田開発350周年記念 横浜の礎(いしずえ)・吉田新田いまむかし 平成18年度 横浜市指定・登録文化財展 一薬師如来像、十六羅漢図・埴輪― ●横浜の遺跡展 むかしタウン縄文縄地― 紺紙金字法華経の世界 一平安時代の装飾経― 横浜の神代神楽 一神楽師たちの近世・近代― ヒトが移るモノが動く 古代の東国にその痕跡を探る 乗り物・おみやげでたずねる 昭和30-40年代の旅 一よみがえる旅のキオウ― 合戦絵巻 鶴見合戦 一『太平記』にみる横浜― 平成19年度 平成19年度 横浜市指定・登録文化財展 菩薩立像・阿弥陀三尊像・聖教 横浜の遺跡展 横浜の考古学と三股台遺跡 江戸時代のよこはま 青葉の村々と失倉沢往還 絵でみる考古学 早川和子原画展 古代のムラの神・仏 お願い！かみさま、ほとけさま 一小絵馬に見るひとびとの願い― 縄文文化円熟 華蔵台遺跡と後・晩期社会 平成20年度 平成20年度 横浜市指定・登録文化財展 横浜の遺跡展 遺跡の発掘から何がわかるの？ 一港北ニュータウン遺跡群 北川貝塚の調査成果から― 黒船・開国・社会騒乱 日記にみる150年前の横浜 海賊 一室町・戦国時代の東京湾と横浜― 平成21年度 絵地図・浮世絵にみる開港場・横浜の風景

※タイトル頭に●を付した展示が、当館にポスターが残っていないものです。

平成21年度	瓦版・絵巻にみるペリー来航と横浜開港 都筑・青葉の生活と歴史 陸の道と海の道の交差点 江戸時代の神奈川 横浜の遺跡展 再現！弥生集落：古代集落 一北川表の上遺跡の調査成果から― 横浜の考古資料展 館蔵の市指定文化財から 古代の役所と地域社会 誕生！古代よこはまの郡家 考古学ってなに？ 古墳時代の生活革命 ―5世紀後半・矢崎山遺跡― 大紙芝居展 よみがえる昭和の街頭文化 近世横浜 海岸部の新田開発 東海道と江戸時代の旅 平成22年度 横浜市指定・登録文化財展 横浜の遺跡展 稲作開始期の集落群 ウズマキかわらけの謎を解く 一部筑区・茅ヶ崎城跡と南関東の中世城館― 大昔のムラを掘る 一三股台遺跡発掘50年 寺社参詣・物見遊山 一横浜・神奈川の名所 風景を伝える、持ち帰る 絵はがきあれこれ 東海道 保土ヶ谷宿 館蔵 市指定文化財展 中世文書・法華経・埴輪 横浜の遺跡展 弥生時代後期の横浜 火の神生命の神 一古代のカマド信仰をさぐる― 海にこぼせ！弥生人 鍛冶ヶ谷村と小岩井家 生妻事件と横浜の村々 龜山重忠 一横浜・二俣川に散った武蔵武士― 横浜の遺跡展 一縄文時代中期の横浜― 「武家の古都・鎌倉」世界遺産登録推進事業関連 称名寺を掘る 仕事がかどるギザギザ農民 千曲こき こうして横浜へやってきた N.G.マンローと日本考古学 一横浜を掘った英国人学者 博物館コレクション 絵巻でみる江戸時代 水へのいのり 古代東国の川辺と井戸のまつり
平成22年度	横浜市立大学コレクション 古地図の世界 地球のかたちと万国の大地 横浜の遺跡展 古代都筑郡の考古学 一北川谷遺跡群から「郷」を考える― 市指定文化財の“はにわ”たち 昔のくらしと年中行事 ちょっとむかしのよこはま
平成23年度	ハマの東海道 佐久間象山と横浜 磯田の吉良氏 都筑区刻20周年記念 ふるさとの情景、都の隆盛にふれる特別企画展 大おにぎり展 平成26年度 市指定・登録文化財展 横浜の遺跡展 古墳の出現 鶴見川流域のくらし 横浜発掘物語展2015 君も今日から考古学者！ 古代の仏教 横浜のあゆみ 一ヒト・モノ・マチ すくすく育てみんなの願い 一出産と育児をめぐるモノがたり― 横浜の遺跡展 港北の狩人たち 平成27年度 横浜市指定・登録文化財展 称名寺貝塚 土器とイロカと縄文人 君も今日から考古学者！ 横浜発掘物語2016 楽しい浮世絵ヒストリー 丹波コレクションの世界 よみがえる学校の文化財 一地域の“かがみ”学校内歴史資料室― 青楓道写真展 杉原千蔵と命のビザ シベリアを越えて 平成28年度 横浜市指定・登録文化財展 津々浦々百千舟 江戸時代横浜の海運 君も今日から考古学者！ 横浜発掘物語2017 横浜の遺跡展 弥生人Go・楽・業！ ハマっ子三浦半島をゆく 江戸と横浜 海と横浜 丹波コレクションの世界Ⅱ 歴史×妖×芳年“最後の浮世絵師”が描いた江戸文化 横浜に稲作がやってきた！？ 平成29年度 かながわの遺跡展/横浜市指定・登録文化財展 銭湯と横浜 一ちょっと昔のお風呂屋さんへようこそ 君も今日から考古学者！ 横浜発掘物語2018 横浜の遺跡展 平成30年度横浜の発掘調査成果速報展 戊辰の横浜 名もなき民の慶応四年 奇木細工 Art & History 金子皓彦コレクションを中心に 横浜市指定・登録文化財展 神奈川の記憶 一歴史を見つめる新聞記者の視点 横浜の野を駆ける 一古代東国の馬と牧― 君も今日から考古学者！ 横浜発掘物語2019 “道灌以後”の戦国争乱 横浜・上原家文書にみる中世 明治・大正ハマの街 一新市庁舎建設地・洲千島遺跡― 俳優緒形拳とその時代 一戦後大衆文化史の軌跡― 令和2年度 横浜市指定・登録文化財展 金子雷太風コレクション 大空を彩るアート 風で旅する日本と世界 横浜の仏像 一しらざるのみほとけたち― 縄文ムラの原風景 目指せ世界遺産！ 若手県御所野遺跡 布 うつくしき日本の手仕事 横浜の大名 米倉家の幕末・明治 令和3年度 横浜市指定・登録文化財 浄土の庭 一称名寺境内国史跡指定100年― 美術の眼、考古の眼 みんなでつなげる鉄道 鉄道開業150周年記念 追憶のサムライ 横浜・中世武士のイメージとリアル 活字 近代日本を支えた小さな巨人たち 令和4年度 横浜市指定・登録文化財展 浮世の華 描かれた港崎 帰ってきた！ 君も今日から考古学者！ 横浜発掘物語2023 生誕百年 中田喜直展 令和5年度 横浜市指定・登録文化財展 ヨコハマの輸出工芸展 君も今日から考古学者！ 横浜発掘物語2024 サムライMeetsペリー With 黒船 一海を守った武士たち― 寶林寺 東輝庵展 横浜の禅 一近世禅林のルーツ 丘のよこはま 近代の村の歴史と暮らし 神奈川の遺跡展 令和6年度 横浜市指定・登録文化財展



横浜市歴史博物館は、令和七年（二〇二五）一月三十一日で開館三十周年を迎えました。開館以来現在まで一九四本の企画展、そのほかにミニ展示などを開催してきました。四月二十六日からはじまる開館三十周年記念特別展「横浜の文化財 Party 修復」では一九五本目の企画展となります。

そして、開館記念を機にこれまで開催した企画展ポスターを一堂に集め博物館のあゆみをふりかえります。とはいえポスター展の準備をし

（文 吉井大門）

会期 令和7年1月31日(土)ー9月7日(日)
会場 横浜市歴史博物館 2階廊下

開館30周年記念ポスター展示
横浜市歴史博物館
展覧会ポスター展

ているなか博物館にこれまで開催した企画展のポスターすべてが残されていないことや、記念すべき第一回展「灯火具のあゆみ」展はポスターを制作しなかったことなどわかったり、色々と当時の事情を考えさせられたりしましたが、それでも博物館二階廊下に展示された一三五枚一五〇本の企画展ポスターは三十年の活動をふりかえるのに十分な彩を与えてくれます。現在博物館に残されていないポスターをお持ちの方がいらっしやいましたら是非お声がけください（左の表のタイトル頭に「●」を付した展示が、当館にポスターが残っていないものです）。



[X (旧 twitter)] https://twitter.com/rekihaku_farm
 横浜市歴史博物館レキハクファーム通信 (@rekihaku_farm)
 で日々の活動の様子をつぶやいています！

「タテからヨコへ」の検証結果

民俗担当です(^o^) レキハクファーム通信9号です。

畑のスタート以来、初の大収穫を迎えた昨年に引き続き、部活的な立ち位置で、のんびりと^{おかほ}陸稲栽培をした令和6年(2024)度の報告をお届けいたします。

お隣のLovelyファーム側と手前の通路側で、陸稲の成長具合に差があった原因をさぐり、畑全体からバランスよく収穫するということを目標に、冬の^{かんお}寒^あこしから土づくりを見直した今年度のレキハクファームの陸稲栽培でした。

手前と奥の成長差を検証するために、^{うね}畝の作り方を変えたところまでは前号でお知らせしたとおりです。8月以降もこまめな除草や水やり^{かん}に励んだ結果、懸案だった手前の通路側もしっかりと稲穂が実り、目標とした畑全体からの収穫を得ることができました。やはり畑全体の土づくりの重要性を改めて認識した次第です。

収穫した陸稲は、しっかりと乾燥させてから脱穀しました。この状態で632g、つづく唐箕で殻を選別した後は470gとなりました。さらに、昨年は脱穀しただけの10分づき玄米として炊飯調理をしましたが、今年は精米機にかけて白米まで精白しました。最終的には270gの白米となりました。

お米不足が世間で叫ばれる中ですが、水田耕作のうるち米のありがたみを感じるとともに、かつての都筑でさかんに栽培された陸稲の意味を考え直す良いチャレンジができました。(文 羽毛田智幸)

レキハクファーム DIARY 2024-25

- [4/28] 除草・耕起・施肥
- [5/27] 施肥・畝たて
- [6/3] 畝の補修・種まき(34株×3畝=102株)
- [6/17] 発芽の確認
- [6/24] 畝の作り直しと追加の種まき
- [7/1・8・20・22・24・29] 除草
- [8/3・5・10・13・17・21] 除草・水やり
- [8/28] 除草・水やり。4畝全体に稲穂が実り始める
- [9/2] 除草・水やり・くずれた畝の修理
- [9/9・17・24、10/7] 成長確認
- [10/18] 稲刈り・乾燥
- [1/8・14] 粃摺り
- [2/17] 唐箕立て・選別
- [2/19・21・22・24] 選別
- [3/9・10] 精米
- [3/14] おとなりのLovelyFarmのフジタさんと陸稲の試食



刈りとりにあらわれた考古担当

大塚・歳勝土遺跡公園だより

令和6年度下半期は、令和6年(2024)10月1日～12月31日まで「弥生のくらしを再現した学びの場を次世代へ!」と銘打って大塚・歳勝土遺跡公園を対象としたクラウドファンディング型ふるさと納税を実施しました。

大塚・歳勝土遺跡公園は今から2,200年ほど前の弥生時代中期の集落とお墓を保護・再現した遺跡公園として、小学校見学をはじめ多くの市民の学びや憩いの場となっています。

あわせて、土器づくり実験や製鉄実験などの調査研究の場、歴史未来フェスやよこはま縁むすび講中のような地域住民や企業とのコラボレートといった多様な活動も行ってきました。



一方、遺跡公園整備からおよそ30年が過ぎ、木材や草、土でできている環濠集落の門や柵、復元住居などのかやぶき屋根の老朽化が進行し、適宜修繕を実施してきました。

横浜市歴史博物館では遺跡公園の修繕と活用をミックスさせた活動として、これまでの博物館ニュースでもお知らせしてきたとおり「かやぶき屋根プロジェクト」をとおして、茅葺き屋根職人の指導のもと、自分たちで素材のススキの確保から茅葺き屋根のふきかえまで、市民の皆さんと一緒に進めてきました。



令和6年度、これまで以上に活発にまた長く大塚・歳勝土遺跡を活用していくために、横浜市主導のもと、クラウドファンディング型ふるさと納税の制度を使って施設修繕の一部に充てることになりました。

今回のクラウドファンディング型ふるさと納税は既に終了し、目標金額には及ばなかったものの、およそ80人の方にご支援いただきました。感謝申し上げます。



令和8年3月23日に大塚・歳勝土遺跡公園は一般公開から30年を迎えます。国指定史跡大塚・歳勝土遺跡として地域の歴史を残す学びの場として、また大塚・歳勝土遺跡公園として地域をつなぐ場としてこれまで以上に多様な活動を計画し実施していきますので、変わらぬご支援どうぞお願いいたします。

(文 橋口豊)

館長コラム vol.7

横浜市歴史博物館のこれから

館長 佐藤 信

横浜市歴史博物館は、令和七年（二〇二五）一月に開館三十周年を迎えました。二月一日には歴代の館長・理事長など五人の先輩方にお願ひして、「横浜三万年の歴史の軌跡」をテーマとした記念講演会を開きました。当館を創設からこれまで導いてこられた安藤広道元学芸員（慶応義塾大学教授）、鈴木靖民前館長（國學院大學名誉教授）、



開館30周年記念講演会 館長あいさつ

五味文彦前理事長（東京大学名誉教授）、西川武臣横浜開港資料館長、上山和雄横浜市府と歴史財団評議員（國學院大學名誉教授）といった方々から、原始・古代から近代にいたる横浜の歴史の歩みの特質を、それぞれ語っていただきました。三十年にわたるこれまでの当館の調査・研究活動とそれにもとづく数々の展示によって、

横浜の歴史像が多面的に明らかになってきた様子を、うかがうことができました。当日は幸い多くの市民の方々にご参加いただき、講堂と別室が満席となり、恐縮ながらお入りいただけない方々にはオンラインの映像を見ていただきました。

また、常設展示室に向かう廊下の両壁では、開館以来の代々の企画展のポスターを並べて展示しております。多彩な展示の数々がなつかしい思い出とともによみがえります。これまで当館がお伝えしてきた横浜の歴史・文化の豊かさ・魅力を、改めて感じていただけるものと思います。

ところで、講演会のテーマには「『横浜市歴史博物館のこれから』という副題を付けました。パネルディスカッションでは、当館早々から学芸を担ってこられた先輩の井上攻元副館長・平野卓治元学芸員（日本大学文理学部教授）の二人からもコメントをいただきました（平野氏はその後急逝なさり、お悔やみ申し上げます）。講師やコメンテーターの皆様からは、これからの当館への期待やご意見をも多様に語っていただくことができました。私たち現在の構成員にとって、大変参考になる講演会・パネルディスカッションであったと



開館30周年記念講演会 ディスカッション

思います。

ところで現在の構成員は、三十周年を迎える喜びや思い出とともに、今の当館が抱える課題に取組み、これからさらに館の発展をめざさなくてはならないという現実にも、直面しております。

たとえば、予算や学芸体制の充実、老朽

化した施設の更新などの課題も残念ながらありますし、なかなか手をつけられないできた常設展のリニューアルなども大きな宿題といえましょう。三十周年の機会に、これから十年、二十年先の博物館像をしっかりと展望しながら、新しい文物・知識を積極的に受容してきた横浜の歴史・文化がもつ「知」を、市民の皆様とさらに共有していきたいと存じます。

その際には、今すべての博物館が求められている、地域の人々との連携・協力の関係が必要になってくると思います。その点では、これまで当館と連携して支えて下さった横浜歴史博よりあげ隊、さいかちの会やボランティアの皆様など多くの市民の皆様のご協力を、引き続きよろしくお願い致します。また、多様な方々からのご支援をお願いする方向から、この度「横浜レキハク・パートナーズ」の制度も誕生いたしました。会員となられた皆様には、当館を

さらに楽しんでいただけるような特典も用意しましたので、ぜひパンフレットやホームページなどでお見知りおきいただければ幸いです。

私たち横浜市歴史博物館も、ひきつづきさらに魅力的な展開をめざして努力いたしますので、地域の皆さま方も、ぜひさまざまな形でご関心をもち応援してくださいませよう、心からお願ひも申し上げます。

横浜レキハク・パートナーズ
webサイトはこちらから▼



2025年1月に
当館は30周年を
迎えます。

30
YOKOHAMA HISTORY MUSEUM

「横浜レキハク・パートナーズ」

寄附・会員制度を通じた
横浜市歴史博物館へのご支援のお願い

※令和7年 3月1日(土)受付開始

年間バスポート進呈や
内覧会へのご招待など
特典も充実！
詳しくはホームページをご覧ください。

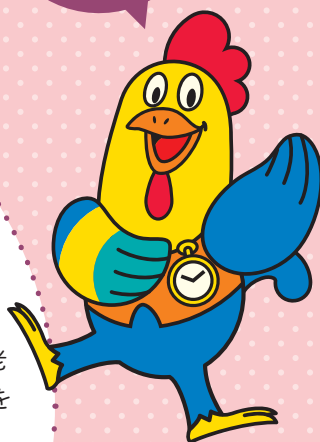
50年先、100年先の
未来に向けて、
博物館の
可能性を拓く。

横浜市歴史博物館
YOKOHAMA HISTORY MUSEUM

横浜レキハク・パートナーズ パンフレット

ミュージアムショップ 開館30周年記念 新グッズ開発中！

ぼくのグッズが
できるんだって！
楽しみだな♪



令和7年（2025）1月

31日に開館30周年を迎えた当館では、ミュージアムショップで記念グッズ製作開発中です。30周年を迎える前に記念グッズ第1弾として既に、令和6年6月にぬいぐるみキーホルダー「はらでぐちくんといっしょ」を製作し、当館の人気商品の1つとなっています。これから製作予定のグッズについては、手に取りやすい普段使いができるもの、お求めやすい価格帯、老若男女誰もが使えるグッズといえば、何？？？と、打ち合わせを重ね、職員や受付スタッフにも相談をしながら進めています。『博物館 News』にも度々登場する、当館のマスコットキャラクターの「レックル」は着ぐるみとしてイベント時に活躍しているものの、単独のグッズがまだ製作されていないので新たに作りたと思っています。また、4月からショッブ担当が変わり、新たな視点でアイデアを出していければと期待しています。今後が楽しみです。（文 野口文恵）

およそ4,000年前に横浜市都筑区の出土品から見つかった筒形土偶をモチーフにしたぬいぐるみキーホルダー「はらでぐちくんといっしょ」第2弾はどんなグッズになるか？



オリジナルグッズ
打ち合わせ中

打ち合わせ中の
机には数々の
オリジナルグッズが



●店頭並ぶオリジナル商品の一部●



安定した人気の「御城印」



種類豊富な浮世絵一筆箋



個性的な絵柄のマスキングテープ

令和6年度開催企画展

企画展

港北ニュータウン 開発と発掘調査

〈会期〉令和6年12月24日（火）～令和7年1月26日（水）



企画展「丘のよこはま」のエピローグの内容の一部を引き継ぎ形で開催し、港北ニュータウン開発とそれに伴って実施された大規模発掘調査（港北ニュータウン遺跡群）に焦点を当てたものです。会期中に当館が開館30周年を迎えることから、関連資料も展示しました。また、神奈川県教育委員会と共同主催のかながわの遺跡展「縄文ムラの繁栄—かながわ縄文中期の輝き—」を同時開催しました。かながわの遺跡展では、県内の縄文時代中期遺跡から出土した優品を展示したため、本展でも港北ニュータウン遺跡群の同時期の資料を中心に構成しました。本展が、開発行為と発掘調査の関係、そして文化財保護について考えるきっかけになれば幸いです。（文 橋口豊）

令和6年度 横浜市指定・登録

企画展

文化財展 × 仏像入門展

〈会期〉令和7年2月8日（土）～3月16日（日）

文化財展では、令和6年（2024）度の新指定文化財のうち、鎌倉時代の写経と南北朝時代の仏像を展示しました。あわせて最近の文化財修理の報告や、文化庁認定の「横浜市文化財保存活用地域計画」の取組を紹介しました。同時開催の仏像入門展では、当館所蔵の像を中心に、市内に伝わる作例をとおして、“仏像”を見るときポイントを紹介しました。日本のどの地域にも、そしてどの時代にも共通する仏像の種類ごとの特徴を取り上げましたが、展示の内容をコンパクトにまとめた「仏像鑑賞ガイド」を作成してミュージアムショップで販売しています。寺院拝観のお供にいかがでしょうか？（文 花澤明優美）

青葉・都筑区制30周年記念企画展

丘のよこはま

—近代の村の歴史と暮らし—

〈会期〉令和6年11月23日（土）～12月15日（日）

青葉・都筑両区の区制30周年にあたり、区制の施行以前、明治22年（1889）に誕生した近代の村について展示を行いました。両区域にあった田奈村・中里村・山内村・中川村・都田村では、農地を整え、土壌にあった新たな産物を模索し、品種や肥料の改良に努めるなど生産技術を高め、収穫した農産物を、村や郡の農会を通じて大会社や遠隔地へ販売して行きました。これらの努力により、柿や桃、イチゴ、メロンなどは村の名産品として広く知られて行きました。昭和40年代に始まる東急田園都市線沿線や港北ニュータウンの開発の中で、目標の一つに掲げられた「都市農業」は、明治時代の近代の村ですすでに芽生えていたのです。（文 阿諏訪青美）



左から青葉区連長・久保田氏、青葉区長・中島氏、当館館長、都筑区長・佐々田氏、都筑区連長・吉野氏（11月22日内覧会）



仏像鑑賞ガイド「仏像の種類／お堂の中のいろいろな像」ミュージアムショップで販売中！600円（税込）

休館の お知らせ

令和7年9月8日(月)から11月21日(金)(予定)まで、設備更新工事のため休館します。
大塚・歳勝土遺跡公園は通常通りご利用いただけます。
※大塚遺跡(復元住居等)は月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始を除き、9:00~17:00開園します。
※ボランティアによる遺跡ガイドをご希望の方は、希望日の1週間前までに博物館にお問い合わせください。

展覧会

- 開館30周年記念特別展
「横浜の文化財 Yokohama Heritage 一まもり伝える地域の記憶」
Part 1「修復」令和7年4月26日(土)~6月2日(月)
Part 2「伝承」令和7年6月14日(土)~7月27日(日)

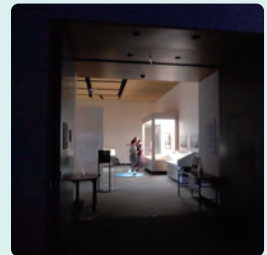
- 企画展「君も今日から考古学者! 一横浜発掘物語 2025一」
令和7年8月9日(土)~9月7日(日)

イベント

- ラストサタデープログラム: 毎月最終土曜日に開催するイベントです
おもしろいぞ! 紙芝居
横浜市指定有形民俗文化財の街頭紙芝居の複製を中心に実演します。
れきし工房「まがたま・あじろ編み小物入れ」
歴史や文化を楽しく学びながらオリジナル作品をつくるワークショップです。
- 歴史未来フェス 令和7年5月24日(土)・25日(日)
博物館を中心とするエリアで開催する地域のイベントです。この2日間は観覧料無料!
- 戦後80年関連講演会「横浜市民の戦争―戦場と銃後の空襲―」
令和7年5月31日(月・祝) 講師: 羽田博昭(元横浜有史資料室主任調査研究員)
- 親子向けナイトミュージアム
令和7年8月11日(月・祝) 懐中電灯をもって夜の博物館を体験できます。



関連イベントや
その他ワークショップ等の
開催については、
当館ホームページ、
SNSにて随時
お知らせしていきます!



ナイトミュージアム

横浜市歴史博物館および大塚・歳勝土遺跡公園の利用案内

- 開館時間
9:00~17:00(券売は16:30まで)
大塚遺跡を除く公園部分は24時間オープン
- 休館日
月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始
そのほか展示替えなどのため、臨時休館することがあります。
- 常設展観覧料

区分	個人	団体 (20人以上、1人につき)
一般	400円	320円
高校生・大学生	200円	160円
小学生・中学生 横浜市内在住65歳以上	100円	80円

- 企画展・特別展の観覧料は別に定めます。
- 毎週土曜日、小・中・高校生は無料です。
- 横浜市内在住の65歳以上の方は「濱ともカード」など証明できるものを提示ください。
- 「身体障害者手帳」「愛の手帳(療育手帳)」[精神障害者保健福祉手帳]をお持ちの方と介護者は無料です。入館の際に手帳または、スマートフォンアプリ「ミライロID」の手帳画面をご提示ください。
- 補助犬(盲導犬・介助犬・聴導犬)とご一緒に入館できます。

会期・開催時間等の予定を変更する場合があります。最新情報はお出かけ前に、当館ホームページまたはお電話にてご確認ください。

- 交通
横浜市営地下鉄「センター北駅」下車徒歩5分
駐車場あり(30分100円)



横浜市歴史博物館

YOKOHAMA HISTORY MUSEUM

〒224-0003 横浜市都筑区中川中央1-18-1
Tel.045-912-7777(代表) Fax.045-912-7781
<https://www.rekihaku.city.yokohama.jp/>
X @yokorekihaku

横浜市歴史博物館ニュースNo.58 2025年4月26日発行
編集・発行 横浜市歴史博物館
デザイン 株式会社フィールド・ノート、柳原梢子(やなぎ堂)